報徳@なう

発行人：
本岡俊郎

令和六年度通常総会

六月一日、令和六年度通常総会を開催し、令和五年度事業報告と決算報告、そして令和六年度事業計画並びに予算が承認されました。役員人事では、滝本一男氏が理事に、監事にはこれ迄の梅原広次氏に代わって内田八重子氏が就任しました。正会員19名中出席者は8名、委任状提出者が11名でした。守屋輝彦前市長、佐々木ナオミ県会議員も出席されました。



◎令和五年度事業報告

入荷数量58㌧（前年度73㌧）71％
配布数量69㌧（前年度78㌧）87％
配布先団体数105団体（前年116）

その他、こども家庭庁助成事業を中間支援団体として受託し、神奈川県、東京都を中心に、延べ343㌧の米や食品を配布しました。

コロナ禍の終息と食品価格の上昇は、提供される食品の大幅な減少という結果を招きました。コロナのために販売できなくなった米や業務用食品の提供が無くなりました。食品価格値上げ後メーカーは生産／販売の調整を行い、余剰を出さない仕組みを構築しフードバンクへの提供が減りました。

こども家庭庁助成事業は、令和5年度内で2回実施しました。1回目は、9月～1月。フードバンクTAMAとのコンソーシアム（事業共同体）を組み、事業費2百53万円、（管理運営費1千300万円、合計2億6千600万円。配布実績は、食品詰合せ箱+米5kgを1万3千セット。重量換算241㌧。

2回目は、令和6年2月～3月。フードバンクTAMA、フードバンクかながわとのコンソーシアム。事業費4千100万円、管理運営費5百万円、合計4千100万円。配布実績は、米（2kg袋）5万1千個（重量換算102㌧）。この2回の配布で、企業からの提供品の減少を十分に補う事ができました。



全般的に雇用状況は改善されてい　ますが、収入が増えない年金生活者や障害者は物価上昇の影響を強く受けています。前年度に引き続き高齢者対策を行い、市営住宅での食品／惣菜配布会を継続しました。

冷凍食品の扱いを強化し、入荷量17㌧（前年比142％）、他の品目の入荷減を補い、提供する食品の質の向上に努めました。配布量での冷凍食品の比率が25％を超えているフードバンクはおそらく他に無いと思います。冷凍ストッカーの貸与や、メニューの提案などの効果が出て来ています。



◎令和六年度事業計画

配布の目標数量70㌧（前年度69㌧）

① 困窮する高齢者への支援に重点をおく。
② 冷凍食品の扱いを増やす。
③ ひとり親家庭と子ども食堂への支援。
④ 休眠預金の資金分配団体として活動する。
　フードバンクかながわとコンソーシアムを組み冷凍食品流通網整備事業に応募した5団体への伴走支援を行う。
⑤ 在庫管理システムを導入する。
⑥ 認定NPO法人の資格取得を目指す。
⑦ イベントに積極的に参加し、活動内容の周知、認知度の向上を図る。

入手できる食品が減少していますが、丁寧に本当に困っている人達に、より良い食品を提供する活動を続けて行きます。そのような方達に行き会うためには、地道に現場で活動されている行政やその委託を受けておられる関係者の方々との連携がますます大切になってきています。

＊＊＊＊＊　＊＊＊＊＊

九月になってしまいましたが、令和五年度の決算報告特集号をお届けいたします。コロナ禍以降提供される食品が大きく減少し、その対応に追われていました。また、運営基盤を固めるための目的も併せて、こども家庭庁と休眠預金の事業の資金配布業務に参加しました。そのために、発行が大幅に遅れてしまいましたことをお詫び申し上げます。

報徳食品支援センター　〒250-0212 小田原市西大友 136－1　℡070-1432-9559　houtoku.foodbank@gmail.com